

III 分野別研究

A 岩石分野

- 小川岩体の結晶作用の研究
- 立山温泉新湯の玉滴石
- 蛋白石の研究

B 古生物分野

- 米馬層群の地質の研究
- 夕張産アンモナイトの研究

C 植物分野

- 県内の植物相調査
- 分布図出力研究

D 昆虫分野

- ツヤハナバチ属の分布と生態の研究
- 県内の昆虫調査

- 日本産ユスリカの分類と分布の研究

E 無脊椎動物分野

- 日本列島のフラジムシ類の分類と生物地理の研究
- 富山湾の海岸動物相の研究

F 脊椎動物分野

- 中部日本の日本海側のサンショウウオの分類学的研究
- サンショウウオの形態学的研究
- 富山県の淡水魚、富山湾沿岸の魚類相の研究

G 天文分野

- カノーパス観察に関する研究
- しんきろうの研究
- 変光星の研究
- えんべいの研究
- 江戸時代の天文器具の研究

調査研究活動の内容 (館報 第11号より)

それから、これも新聞に載っていましたが、今年から恐竜調査も始められたそうですね。

B: はい、石川県・福井県と恐竜の化石が見つかっていますから、富山からも見つかるかも知れません。

A: おもしろそう。

B: おもしろいといっても、調査する方は大変です。真夏の炎天下、山奥の化石でそうな地層まで行ってカンカンと山はだを削るんですから。

A: ロマンですね、これは。恐竜の化石が見つかるといいですね。

A: 雪の研究もありますね。富山は雪が多いから。

B: はい、富山の雪は北海道の雪などと違って湿気が多く、雪の結晶が一つ一つバラバラに降ってくることはあまりありません。

A: ということは?

B: 結晶がからみあって、一つのかたまりとなって降ってくるわけです。

A: ほたん雪ですね。

B: そうです。このほたん雪を立体的に観察してその仕組みを知ろうとしているのです。

A: 明日の朝まで何センチ降るかといった降雪予想も実用的でいいのですが、ほたん雪の仕組みを調べるといっても夢があっていいですね。

B: それから、富山の水質調査や、先ほども言いましたが今話題の酸性雨の調査も行っています。

A: 蟹気楼の調査というのもおもしろそうですね。

B: はたから見ると「ひなたぼっこ」ぐらいにしかな見えないかも知れませんが、蟹気楼が出るまで時間も双眼鏡をのぞいていると目がいたくなるらしいですよ。

それに春と言っても暑いときは、気温が30℃近くになる日もあります。そんな中で何時間も

観察していると体はもうクタクタになるらしいですよ。

A: そんなものですかね。

B: さて、今度は目を星空にうつしましょう。

A: 星のことも調べているのですか?

B: そうです。

星の中には時間がたつと明るさの変わる星があるんです。これを変光星といいます。この星のことをいろいろ調べています。

A: 生き物から化石、そして宇宙までもですか。すばらしいですね。

B: 各専門の研究以外にも、それぞれの専門を生かして共同の研究も行っています。

A: 共同の?

B: いままで、浜黒崎の調査、いたち川の調査を行ってきました。そして今年は、十年前とどう変わったかということで、また浜黒崎を調べています。

A: 結果が楽しみです。

B: はい。

今後は身近な生き物について、センターだけでなくみなさんと一緒に調査をして展示に生かすことを考えています。

A: それは、いいことですね。

今日はいろいろお聞かせいただきありがとうございました。

—帰りぎわ、科学文化センターの行事予定表を見つけて—

A: わあ、たくさんの普及行事がある。

これらはみんな、いろいろな調査研究がもたになって行われているわけなのね。

あら、この行事。私も今度参加してみよう。

(よしむら ひろよし 天文担当)